

耕種農家・食品業者等と連携した地域飼料資源の活用による豚肉生産

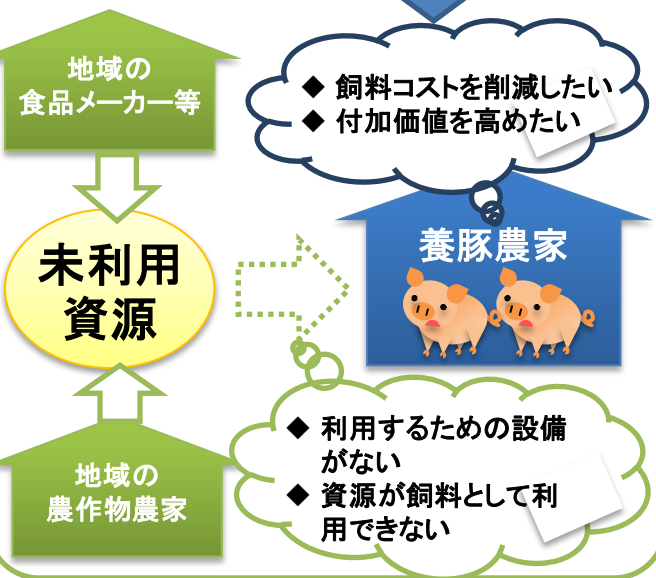
(茨城県)

- 輸入飼料に依存してきた養豚農家が、食品残さ、飼料用米、その他の地域資源を飼料として利用拡大することで、コストを削減。
- 付加価値を高めて販売することにより、収益性を向上。

現状と課題

飼料コスト(生産費の約5割)の低減が課題

輸入飼料への依存による高コスト経営



課題1 コスト削減のため、地域内の未利用資源(食品残さ、規格外品)を利用したいが、設備がないため、飼料の保管・調製ができない。

課題2 豚の品質を高める餌の給与法が分からない。

取組内容

地域の未利用資源を飼料として利用拡大し、地域ぐるみで収益性を向上



施設整備事業で
豚舎・飼料保管庫等を整備

効果1 飼料の保管・調製施設の整備により、地域の未利用資源の飼料利用を拡大し、飼料コストを低減。

効果2 未利用資源を利用することにより、養豚農家、農作物農家、食品業者等が域全体で収益性を向上。